

ちびっこ チャンピオン

「秋、うれしいね！」

きらら保育園

(左から)

さかもと しずくさん (6さい)
くまがい ちなさん (6さい)
かわむら じゅりさん (5さい)
きくち ふうくん (5さい)
せりた まひろくん (5さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。

深浦町の花



深浦町の木



深浦町の鳥



カモメ



このコーナーでは誕生日を迎えたちびっこ達をご紹介します



さいとう みなみ
斎藤 湊美ちゃん
(松神) R5年9月21日
「その笑顔でたくさんの人を笑顔にしてね」



さとう りく
佐藤 璃空ちゃん
(岩崎下) R3年9月18日
「ホントにVパと結婚するの? (笑)」



やまさき りこ
山崎 莉子ちゃん
(北金1区) R4年9月22日
「元気でいてくれてありがとう! 大好きだよ!」



やなぎさわ しゅんすけ
柳沢 俊介ちゃん
(北金3区) R2年9月17日
「4歳おめでとう! またミッキーに会いに行こうね!」

草創教育長の

「今月の一枚」

泣ける話

老いて涙もろくなるのは、人生を重ねて共感する心が豊かになったから。私もそう自惚れていました。が、実は、感情を抑制する脳の前頭前野が加齢で劣化して、コントロールがきかなくなっただけの話だそうです。思えば私は、子どもの頃から泣き虫で、特に、テレビや物語を見てはよく泣いていました。ゴンボやケンカで流す涙よりは、よほど上等なはずだ。そんな、子どもなりのへ理屈も持っていた気がします。

民子が、胸に政夫の写真と手紙を隠して、いたくたりになると今でも目頭が熱くなるし、「幽明運けく隔つ」と言い切る男の純情には、脱帽します。「君の臍臓をたべたい」も適わらないと思っています。

これも紙面がないので以下省略。教員時代、やりたくてやれなかつた取り組みを一つ提案します。学級で、各自の推しの泣ける小説を紹介し合うというのはいかがでしょうか? ブックトークとかビブリオバトルと呼ばれる手法です。

泣けるポイントや魅力を紹介し合うことで、お互いの感性や価値観の違いにも気づけます。共感を深めるきっかけにもなります。自分の涙の根源をさらけ出せる関係もステキですね。

ぜひ、お試しあれ。

まずは、昔のテレビアニメから。ネロ少年と飼犬パトラッシュが、ルーベンスの絵と天使達に導かれて昇天する『フランダーズの犬』最終回は、一人で見ていたので遠慮なく号泣できました。

女王バチのママと涙の再会を果たす『みなしごハッチ』は家族もいたので、声を殺して背中泣きました。

極めつけは『巨人の星』の最終回。「よぞ父を乗りこえた」と、星徹が飛雄馬を背負って消えるラストはアニメの範疇をこえた、非常に凛々しい精神世界だったと今でも思い出します。

最後に、パリ五輪柔道種目で敗れ号泣した、あの女子選手の話です。リアルタイムで見た私は、気持ちはわかるが負け方も子どもの手本であつてくれ! と、憤慨しました。

ま、脳の劣化で感情制御ができたのかもしれません。

(教育長 草創 文)

